



# ひろげよう こども 食堂のあ



子ども食堂とは、子どもが1人でも行ける無料又は定額の食堂であり、子どもへの食事提供から孤食の解消や食育、さらには地域交流の場などの役割を果たしています。

今回掲載している子ども食堂等については、市が活動を把握している団体に限ります。

## 地域の中で活動する人たちがつながり、 大きな支援者の輪になっていくことに やりがいを感じています

### 食堂の特色、取り組み等

飲食店のキッチンモイを間借りして、食品衛生への配慮、食事のおいしさにこだわっています。また、子ども向けのイベントや企画を開催したり、季節を感じるイベントを用意することで、子どもたちに季節を感じてもらい、親子のコミュニケーションの時間につなげています。高校生や大学生がボランティアに関わってもらうことで、子どもたちにとって

年齢の近いお兄さん、お姉さんとの関わり機会を設けています。

### 地域の方へ発信したいことは？

食材の安定した寄附のご支援、活動において必要な経費(資材購入費、事務用品、光熱水費、調味料等)のご支援はもちろんですが、ニーズのあるお子さんやご家庭に、ぜひ、子ども食堂の活動の情報を発信していただけたら嬉しいです。

## 01 こども食堂やまちゃん

**開催会場** 芦山町10-1 セゾン芦山102  
☎ 070・1507・2520 (山口)

**開催日** 毎月第4金曜日 17時30分～19時  
※現在は、事前予約等の受付はしていません。時間内で、予定数をすべて配付した時点で終了です。

**参加者** 一般市民(子どもから高齢者まで)制限なし

**参加費** 中学生以下無料、高校生以上300円



01

こども食堂

# こどもの居場所

人それぞれ、様々な方法や立場で参加できる、世代を超えた交流の場

全国的に広がっている「子ども食堂」。変わり続ける社会情勢に合わせて、子ども食堂のあり方も変化しています。

坂戸市においても、近年子ども食堂の活動が活発になってきました。

子ども食堂は、子どもの孤立、孤食を支援する目的から始まった活動のため、少し前まではネガティブなイメージもありましたが、いまは全国的に「地域の多世代交流の場所」へと変化しています。子どもに限らず、幅広い世代の人たちが関わりを持てる場所として「子ども食堂」では温かな関係が生まれ始めています。



## 食堂を始めようとした、きっかけは？

幼少期、食に不安を抱えながら生活していた原体験があり、自分にできることはないかと考えていたところ、数年前から社会現象にもなっていた「子ども食堂」の活動に興味をもち、いつか、自身が関わる地域の子どもの食支援ができればと考えていました。

また、子どもたちにとって、家や学校以外の居場所があることで、新たなつながりや大人との関わりを通して、自主性や主体性が育まれる環境をつくりたいと思い、始めることにしました。



# 子ども食堂 取材してきました

市内で、地域のために活動している団体のみなさんを紹介します。  
笑顔があふれる場所に、今よりもっと元気になれます。



## 02 SDGs坂戸ふれあい食堂

開催会場 清水町 25-9 ☎090・8682・0492  
(運営責任者 伊藤)

開催日 毎週木、金曜日と第2、第4土曜日 12時～15時  
参加者 子どもから高齢者までコミュニティの場を提供  
参加費 乳幼児無料、小学生 200円、中学生 250円、  
乳幼児付き添い大人 250円、一般大人 500円  
※イベントによっては無料提供



### 賛助会員や寄附金について

随時受け入れています。  
上記連絡先へお問合せください。

## 子どもから高齢者まで コミュニティの場を提供

### 食堂の特色、取り組み等

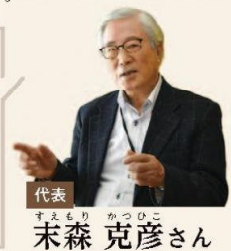
子どもから高齢者まで食事を通じて交流する場です。土曜日は食後学習支援や大学生との遊びの場を提供しています。SDGsを掲げ、困窮家族支援、学習支援、空き家ロス、食品ロスなど具体的な活動をしていきます。

食堂の活動を通して、感じたこと  
この場所を支えているのは全てボランティアで調理員も曜日ごとに

分担して6人以上います。食堂に来る家族、一人暮らしの高齢者がここにきて会話が弾み笑い声が聞こえるのでうれしいです。資金繰りは厳しく、寄附金や会費で成り立っており継続するために奮闘しています。

地域の方へ発信したいことは？  
ぜひ食べに来てください。美味しいです。調理員が毎回腕を振っています。

コロナをきっかけに不登校の子どもたち、生活困窮の家庭の子どもたちの問題が見えてきました。高齢者も配達のお弁当が増え自宅から出ることが減り、どちらの問題も食事提供により少しでも貢献したいとの思いから始めました。



代表  
すまもり かつっこ  
末森 克彦さん

## 行けば誰かがいて、楽しく過ごせる場所



## 03 おこちゃマイル

開催会場 西坂戸自治会館 (西坂戸 3-1-9)  
☎286・9635

開催日 毎月第4土曜日 12時～  
参加者 子育て世代  
参加費 無料



代表  
ふるうち  
古内 琴美さん

子どもたちに楽しいと思ってもらえることが一番うれしく思います。また、地域の方の協力が多くあり、それぞれの得意分野や人脈を活かし活動に携わっていただけて感謝しています。

おこちゃマイルが始まったきっかけ  
私の姉が子どもの居場所の必要性を感じたことから始めました。今は昔に比べて誰かの家にみんなで集まることがなく、家庭、学校、習い事等のほかに子どもの居場所づくりが必要だと感じます。

おこちゃマイルに行けば、誰かがいて、楽しく過ごせる場所として子どもたちが来てくれればと思っています。

### 食堂の特色、取り組み等

城西大学ローターアクトクラブ、城山学園、西坂戸自治会の共同で城山学園地域内の子どもを対象した、「食」と子どもを「育」てる食育活動を行っています。おこちゃマイルの食事は、地域の方から食材を頂き、頂いた食材を見てメニューを決めています。調理に詳しい人も多く携わっているため、集まった食材次第で臨

機応変に対応し、前日や当日にメニューが決まることもあります。また、おこちゃマイルは大学生が携わっているため、小・中学生と大学生の良い交流の機会となっています。

### 今後の展望は？

子どもの居場所を考えるときに、大人がどうするか考えてしまい、子どもたちがどう思っているかが置き去りにされてしまうことがあると思います。この子ども食堂は、子どもたちが主体となって活動できるような、子どもの気持ちを大切にしたい子どもの居場所にしていきたいと思っています。  
地域の方へ発信したいことは？  
子ども食堂という「貧困」などのネガティブなイメージがあると思いますが、子ども食堂＝「貧困」ではなく、子どもの新しい居場所の1つとしてとらえていただければと思います。



食材の寄附やボランティアとして活動したい場合は各食堂等へお問い合わせ願います。



#### 4 坂戸フードパントリーおひさま

☎070・1507・2520 事務局:(一社)シンピオージ(山口)

**寄附できる食品** 未開封、賞味期限2か月以上、常温保存、缶詰、インスタント・レトルト商品、嗜好品、飲料水(アルコール除く)、乾物、調味料、ギフトバック、その他(生もの以外)

**食品寄附の方法** 団体の事務局のある場所にお届けいただくか、担当者が受け取りに訪問させていただきます。

#### フードパントリーとは?

ひとり親家庭や生活困窮世帯など、様々な理由で日々の食品等の入手が困難な方に対して、企業や団体、家庭などからの提供を受け、身近な地域で無償で配付する活動(場所)をフードパントリーといいます。



代表 山口 真さん

利用して下さる方々がとても喜んでくださったり、感謝の声を聞かせることがうれいです。

また、子どもたちも楽しみに来てくれることもあったり、配付品を運ぶお手伝いをしてくれたり、子どもたちの笑顔が見られることがうれしいです。開催月によって配付できるものの量に変動があり、配付量が少ない時は、こちらも申し訳ない気持ちになりますが、少なくとも、「今日も楽しみに来ました」とお声をいただけることがやりがいにつながります。

#### 「地域のために役に立ちたい」と願っている人たちの想いを形に

**活動を始めようとした、きっかけ**  
日本全国でも子どもたちの7人に1人が「貧困」。ひとり親家庭では、2人に1人に及ぶと言われていました。食材配付の支援を通して、地域で発掘されていない問題や課題を見つけ、行政と連携を取り、ひとりでも多くの子どもたち、家庭の支援につなげていきたいと思い、団体設立に至りました。

**地域の方へ発信したいことは?**  
フードドライブ\*の活動場所、活動して下さる協力者を募集しています。配付するものを集め、配付することが当団体の役割です。配付する物を安定してご寄附いただくことで、より多くのご支援が必要なご家庭、お子さんに配付することができます。ぜひ、安定した配付品のご寄附にご協力をお願いいたします。

\*家庭で余っている食品を持ち寄り、寄附するボランティア活動

#### INTERVIEW 活動に参加している学生にインタビューしました

筑波大学附属坂戸高校で坂戸フードパントリーおひさまとしての活動を行っています。校内の学生や教職員の方を対象に、家庭にある食品を寄附していただきフードパントリーで配付しています。



池田 帆花さん  
2年(17歳)

#### 地域全体で自然と支えあえるような関係性が作れるようになれば

**フードパントリーに参加しようと思ったきっかけ**  
先輩たちが授業などで地域の課題に積極的に取り組んでいた姿を見ていたこともあり、私は1年生のときに子ども食堂に参加していました。子ども食堂もどちらかと言うとひとり親家庭や貧しい世帯の子どもたちを対象に行っている印象が強いんですけど、でも近所の子たちがわいわい楽しく遊んでいるのを見て、もしかしたらそこまで生活に困難している人は少ないんじゃないのかなと思ひ、地域の現状を知りたくなったのがきっかけでした。活動してみて「いつも助かっています」「フードパントリーのおかげで生活できています」という声を聞くことができるので、今

まで見ていたものが全てじゃないと思いました。

**地域の方へ発信したいことは?**

貧困で困っている子どもたちを助ける活動以外にも見えるかもしれないですが、同時に家庭で廃棄になってしまう食品ロスの解決につながっています。ぜひ周りのフードパントリーに寄附をしてお互いが良い関係で当たり前のように支え合えたらうれしいなと思います。まずは近くの活動に興味を持ってみてください。市役所でもフードドライブを行っているときがあるので、見かけたら食品を寄附していただけたらうれしいです。

